

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきさいだんほうじん かながわふいるはーもにーかんげんがくだん 公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL https://www.kanaphil.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 上野孝	
制作団体所在地	〒 231-0023 神奈川県横浜市中区山下町46番地 第1上野ビル1階	最寄り駅(バス停) 日本大通り
電話番号	045-226-5045	
ふりがな 公演団体名	かながわふいるはーもにーかんげんがくだん 神奈川フィルハーモニー管弦楽団	団体ウェブサイトURL 制作団体に同じ
代表者職・氏名	制作団体に同じ	
公演団体所在地	〒 制作団体に同じ	最寄り駅(バス停) 制作団体に同じ
制作団体 設立年月	1970年3月	
制作団体組織	役職員 理事長 上野孝 副理事長 上野健彦 専務理事 櫻井龍一	団体構成員及び加入条件等 理事 15名 監事 2名 評議員13名 名誉顧問・顧問 6名 参与・音楽参与2名 事務局 23名 楽団員 76名
事務体制 (専任担当の有無)	他の事業と兼任の事務担当者 を置く	本事業担当者名 澤木泰成、林大介、梅咲安紗子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名 金井義則

<p>制作団体沿革</p>	<p>1970年(昭和45年) 3月 県内の若い音楽家達による「ロリエ管弦楽団」として発足 10月 神奈川県立青少年センターにて第1回定期演奏会を開催 1971年(昭和46年) 10月 神奈川フィルハーモニー管弦楽団と改称 1978年(昭和53年) 7月 財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団となる 2003年(平成15年) 11月 第200回定期演奏会を開催(指揮:現田茂夫) 2007年(平成19年) 3月 NHK地域放送文化賞を受賞 11月 横浜文化賞を受賞 2010年(平成22年) 5月 創立40周年を記念し神奈川県民ホールにて記念演奏会を開催 2014年(平成26年) 4月 公益財団法人へ移行 6月 第300回定期演奏会を開催(指揮:川瀬賢太郎) 2022年(令和4年) 4月 音楽監督に沼尻竜典氏が就任</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<p>2005年より「ゆめコンサート」(体験事業)を毎年実施している。 累計60校 2万人以上の子ども達が体験している。</p> <p>(直近) 2018年 5校で実施 2019年 5校を計画(コロナにより 2校中止、3校実施) 2020年 5校で実施(コロナにより 1校中止、4校実施) 2021年 5校を計画(コロナにより 4校中止、1校実施)</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>地域に根ざした「コミュニティ・オーケストラ」として行う社会貢献事業として、県内の特別支援学校や医療施設等を訪問演奏する出張コンサートを2000年度より実施している。</p> <p>他の学校と同様に、ワークショップと本公演を行うが、参加する子どもたちの状況に合わせて学校側と事前相談し、できる範囲で共演する。</p> <p>2011年 ゆめコンサート 大阪府立刀根山支援学校 三重県立度会特別支援学校 2012年 ゆめコンサート 三重県立稲葉特別支援学校 2013年 ゆめコンサート 大阪府立堺支援学校 大阪市立光陽特別支援学校 2017年 ゆめコンサート 大阪府立住之江支援学校 2018年 ゆめコンサート 大阪府立大阪北視覚支援学校、和歌山県立たちばな支援学校</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=7Bx7iCCi41U&t=1s</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>	<p>なし</p>	
		<p>PW:</p>	<p>なし</p>	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 神奈川フィルハーモニー管弦楽団】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	神奈川フィル「ゆめコンサート」 身体で感じて、作って、歌って、オーケストラと共演！				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>1. ビゼー作曲 歌劇「カルメン」より前奏曲 2. ビゼー作曲 歌劇「カルメン」より「ジプシーの踊り」 3. オーケストラの楽器の紹介(1種類ごと) 4. 一緒に演奏しよう！(共演) ※1)または2)のどちらかを選択 1) 音楽を身体で感じるボディパーカッション [低学年・高学年共通] チャイコフスキー作曲 バレエ「くるみ割り人形」より「トレバック」 2) 楽器で共演 ① L.モーツァルト作曲 おもちゃの交響曲から第2楽章 [低学年] ② A) エルガー作曲 行進曲「威風堂々」第一番 [高学年] ※A)またはB)のどちらかを選択 B) 杉本竜一作曲 ビリーブ [高学年] ③ ロジャース作曲 サウンド・オブ・ミュージック [中学校吹奏楽] 5. 児童生徒作詞作曲 私たちだけの合唱曲(世界初演) [全学校共通] 6. メインの楽曲 1) ヴェルディ作曲 オペラ「アイダ」より「凱旋行進曲」 2) チャイコフスキー作曲 バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」 ※1)または2)のどちらかを選択 7. (アンコール)校歌(オーケストラによる特別編曲の演奏と斉唱)</p> <p style="text-align: right;">公演時間 75 分</p>				
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要 否	該当あり	該当コンテンツ名 杉本竜一「ビリーブ」、校歌 ロジャース「サウンドオブミュージック」		
	該当事項がある 場合	権利者名	楽譜の使用	許諾確認状況	採扱後手続き予定
演目概要	<p>1. 歌劇「カルメン」より前奏曲 ビゼーが作曲したオペラを代表する前奏曲の1つです。 誰もが耳にした事のある名曲をオープニングに演奏することで、子ども達の興味をステージへ引きつけます。</p> <p>2. 歌劇「カルメン」より「ジプシーの踊り」1曲目と同じオペラの劇中に使われ、フルートとハーブの伴奏で始まる異国情緒 豊かな踊りの音楽です。静かな曲想で始まり後半に行くに従いテンポがだんだんと速くなり、子どもたちの気持ちを盛り 上げます。</p> <p>3. 「楽器の紹介」オーケストラで使用される全ての楽器を、個別に実演しながら紹介します。(教育現場の先生方の要望が 多いため、個別の方法を取っています)2020年度より児童に人気のハーブを加え、視覚から興味心を刺激します。</p> <p>4. 「一緒に演奏しよう！」オーケストラとの共演を目的とし、教育現場で使用する楽器を利用した体験プログラムです。 ※ 1) または 2) のどちらかを選択 1) 音を身体で感じるボディパーカッション バレエ「くるみ割り人形」より「トレバック」 トレバックの軽快な音楽に合わせて、身体と腕、足を使い全身でリズムを感じ取ります。 2) 楽器で共演(小学校の低学年と高学年に分かれて実施します。) ① 小学校低学年向け/「おもちゃの交響曲」(学校で普段使用している楽器、カスタネット、ピアノ、その他楽器に なり得るものは全て可能)で共演いたします。 ② 小学校高学年向け/A) 行進曲「威風堂々」第一番 と B) 「ビリーブ」から選択 (両方とも、リコーダー、ピアノ等のメロディ楽器)で共演。A)またはB)のどちらかを選択して頂きます。 ③ 中学校向け/中学校の吹奏楽部とオーケストラの共演です。ミュージカルの代表作品「サウンド・オブ・ミュージック」 (神奈川フィル・オリジナル編曲)を用意しました。 5. 「私たちだけの合唱曲」本公演の一番のクライマックスとなるこの曲は、児童生徒が主役です。子どもたちが作詞・作曲 した作品をプロの作曲家がオーケストラ伴奏つきの合唱曲に編曲します。世界に一つしかない自分たちだけのオリジナル 作品をオーケストラと共演披露いたします。(世界初演) 6. メインのプログラム ※1)または2)のどちらか1つを選択 1) 「オペラ」アイダより「凱旋行進曲」イタリアの作曲家/ヴェルディが書き残した歌劇「アイダ」の劇中で演奏 される人気のある作品の一つです。 2) バレエ「くるみ割り人形」より「花のワルツ」チャイコフスキーの三大バレエの一つから、クラシック音楽の中で最も ポピュラーな曲です。冒頭では美しいハーブの音色も楽しむことができます。 7. (アンコール)校歌(特別に編曲したオーケストラ伴奏により全員で斉唱)</p> <p>※5.「私たちだけの合唱曲」と 7.「校歌」については、神奈川フィルの演奏で収録し、無料でプレゼントしております。 この事業で子どもたちが作った合唱曲と校歌が、いつまでも歌い続けてもらえますように。</p>				

<p>演目選択理由</p>	<p>コロナ禍の影響により、都市部でさえ芸術を鑑賞できる機会が減少しており、僻地における子どもたちの芸術の鑑賞・体験の機会はさらに厳しい状況と推測する。この企画は、障害のある・なしにかかわらず、誰もがその人らしく社会に参加し、笑顔溢れる生活を目指し、共に生きる社会「ワンハート」の世界を目指す。</p> <p>■各楽曲ごとの選曲意図</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「心を掴む」、2. 「ワクワクさせる」、3. 「楽器への興味」、4. 「参加し易さと協調性」、5. 「創作の喜び」、6. 「身近に感じる」、7. 「故郷」、をテーマに様々な手法を織り交ぜ企画し選曲しております。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「歌劇『カルメン』より前奏曲」出だしの華やかな誰もが知っているクラシックの名曲作品を最初取り上げることで、子どもたちに興味を持たせます。 2. 「ジプシーの踊り」軽快なリズムの曲を取り上げることで、子供たちの音楽へのワクワク度を高めます。 3. 「楽器のお話」オーケストラで使われる楽器を種類ずつ紹介いたします。現場の先生方のご要望に添った個別の楽器紹介を取り入れております。(演奏者は、子ども達を飽きさせない工夫を、毎回盛り込んでいます) 4. 「一緒に演奏しよう！」 <ol style="list-style-type: none"> 1) 音を身体で感じるボディパーカッション「チャイコフスキー作曲 トレパック」 どこの学校を訪問しても、楽譜を読むことが苦手な子どもたちは若干ですが必ずいます。そんな音楽の苦手な子どもでも、簡単に音楽に参加できるよう、身体でリズムを感じるボディパーカッションを取り上げました。身体を動かすことが大好きな児童は、より楽しく事業に取り組むことができ、更に音楽の担当ではない先生も一緒に参加できます。 2) 楽器で共演 <ol style="list-style-type: none"> ① 「おもちゃの交響曲」小学校低学年の子どもたちが気軽に参加(共演)できる楽曲です。2パートに分かれ交互に演奏しながら一つの楽曲を演奏します。相手を大切にすることを養います。 ② A) イギリス市民に愛され世界中でも愛されている「威風堂々」(リコーダー、ピアノ等のメロディ楽器で共演)を題材にオーケストラと一緒に演奏することで、相手を大切に思う心や、協調性を養います。 B) 学校の教科書でも紹介される「ピリッパ」(リコーダー、ピアノ等のメロディ楽器)で共演(一緒に行動)歌詞を通じて、相手を思い寄り添う心や、信じる事、平和の意味を養います。 ③ 「サウンド・オブ・ミュージック」同上の理由です。特にサウンドオブミュージックの内容は、協力、平和、家族愛です。今私たちに一番必要な内容がぎゅっと詰まっています。 5. 「私たちだけの合唱曲」児童・生徒が自分たちで作詞作曲をして合唱曲を作り上げる事で、創造する楽しさ、直観力、コミュニケーション能力、感受性を養います。この企画一番の見どころです。 6. 1) 「アイダ」より「凱旋行進曲」 2) 「くるみ割り人形」より「花のワルツ」 サッカーの応援や遊園地でも使われ、子どもたちの身近な生活で流れているクラシックの作品を取り上げることで、音楽をより身近な存在なものとして感じてもらうために取り上げました。 7. 「校歌」(特別に編曲したオーケストラ伴奏により全員で斉唱) 子ども達全員が知っている校歌を取り上げることで、参加している児童生徒、先生方、保護者等、会場にいる全員が一つになります。世代を超えて地元を大切に心「ワンハート」を持ち続けて欲しい、そんな思いを込めています。 ※これから子どもたちに待ち受ける人生の様々な試練は、今回の様々な体験が必ず心の支えとなり、乗り越えられる力になると信じています。 		
<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>参加形態は、大きく分けて身体または器楽、合唱の3つの中から2つの方法でオーケストラと共演します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体(ボディパーカッション) 子どもたち全員が参加します。チャイコフスキー作曲/トレパック楽譜を読めない子ども達でも簡単に参加できる企画です。トレパックの軽快なリズムに合わせて、講師自らパフォーマンスしながら指導しますので、直ぐに音楽に溶け込むことができます。 2. 器楽 低学年と高学年に分かれて参加します。 <ol style="list-style-type: none"> ① 低学年 L.モーツァルト作曲 / おもちゃの交響曲から第2楽章 更に、打楽器と音程の有る楽器の2チームに分かれてオーケストラの演奏に加わります ○打楽器は、普段学校や地元の地域活動で児童・生徒が使用している楽器を使います。(カスタネット、タンブリン、空き缶、和太鼓等でも可能) ○音程の有る楽器は、普段学校や地元の地域活動で児童・生徒が使用している楽器を使います。(リコーダー、ピアノ、和楽器等でも可能) ② A) 「エルガー作曲 行進曲“威風堂々”第一番」(小学校高学年) B) 「杉本竜一作曲 ピリッパ」(小学校高学年) ○メロディラインを演奏可能な楽器で、オーケストラと合同演奏(普段学校や地元の地域活動で児童・生徒が使用している楽器を使用します) ③ 「ロジャース作曲 サウンド・オブ・ミュージック」(中学校のみ) ○吹奏楽の生徒との合同演奏。オーケストラと合同演奏できる譜面を用意しました。事前にパート譜を送付しますので可能な範囲で練習していただき本番時に共演します。 3. 合唱 <ol style="list-style-type: none"> ① 「私たちだけの合唱曲」(全学校共通) 事前に児童・生徒からオリジナルの歌詞・簡易なメロディを募集し、それを神奈川フィルが管弦楽伴奏の合唱曲に編曲し、それを歌います。本番は、全員合唱でオーケストラと共演します。 ② 「校歌」(アンコール) 各学校の校歌もオーケストラ版に編曲し、アンコールとして参加者全員で斉唱いたします。(プログラムには掲載しません) 		
<p>出演者</p>	<p>指揮・進行 堀俊輔、和田一樹、阿部未来、松川智哉 から出演を予定 管弦楽 神奈川フィルハーモニー管弦楽団</p>		
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 57 名 スタッフ: 6 名 合計: 63 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 4 t 車長: 9 m 台数: 1 台</p>

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
	9時	9時～11時		14時～15時15分	なし	15:15-16:30	16時30分	
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。							
本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月			
	0日	0日	0日	4日	5日			
	11月	12月	1月	計	15日			
	6日	0日	0日					
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。							
児童・生徒の 参加可能人数	本公演			共演人数目安	10人から500人(体育館にいる人全員)			
				鑑賞人数目安	10人から500人(体育館にいる人全員)			

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出や
がわかる写真)



舞台として必要なスペース
オーケストラは、体育館の舞台前から約8m出ています。
オーケストラと子どもたちの間は、約2m空けて頂きたいです。
子どもたちの両サイドは、できれば2m空けて頂きたいです。

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人～500人
<p>ワークショップ実施形態及び内容</p>	<p>ワークショップの標準時間は、約90分 低学年 20分（10分休憩 高学年移動） 低学年、高学年 20分（10分休憩 低学年移動） 高学年 30分</p> <p>※ 1)、2)はどちらかを選択 ※ 2)の②は、A)、B)のどちらかを選択 ※ 2)の③は中学生のみ ※ 3)全員参加</p> <p>1) 音を身体で感じるボディパーカッション「チャイコフスキー作曲 トレパック」 低学年と高学年に分かれて実施します。 どちらも、手や足で手拍子や足踏みなどでリズムを刻みます。 低学年は比較的簡単に、高学年は、ややリズムを複雑にし、簡単すぎて飽きない様工夫しております。</p> <p>2) 楽器で共演 ①レオポルド・モーツァルト／おもちゃの交響曲から第2楽章(低学年) 低学年の中で、更に「打楽器パート」と「かっこうパート」に2チームに分かれて演奏します。 「打楽器パート」は曲に合わせてリズムを叩き、指揮者の見てテンポに合せ、合奏の練習をします。 講師は、楽器の扱い方、より良い音の出し方、リズムは言葉を当てはめて練習する等指導をいたします。 「かっこうパート」は鍵盤ハーモニカやリコーダー等、音程の出る楽器を使い、かっこうの鳴き声の部分演奏をします。演奏箇所は少ないので、指揮者の合図を見て皆で合わせる練習をします。 (テンポを速めたり遅くしたりして、指揮者を見る練習) 講師は、よりかっこうの鳴き声になる様に演奏方法(音は短めになど)のアドバイスをします。</p> <p>②A)エルガー／行進曲「威風堂々」第一番(高学年) B)杉本竜一／ピリブ(高学年) 4～6年全員がリコーダーで演奏する。音楽が表わす情景のイメージを皆で共有しながら、全員が1つの音になれるように練習する。 高音域の演奏方法の指導を受ける(指使い、息の使い方、タンギングなど) 楽器の扱い方(演奏しないときは構えない、触らない、大切に扱う)の指導を受ける。</p> <p>③ロジャース／サウンド・オブ・ミュージック・モドレー(中学校吹奏楽部) 中学校の吹奏楽部と共演する。 木管、金管、打楽器の3パートに分かれて講師の指導で分奏し、その後指揮者の指導による合奏練習をする。各分奏では合奏する時の注意点、オーケストラと共演する時の注意点を練習する。 *吹奏楽部のない中学校は、1)の「ボディパーカッション」、2)②のA)「威風堂々」またはB)「ピリブ」をアルトリコーダー等で演奏する。</p> <p>3) 私たちだけの合唱曲(全学校共通) ワークショップ前に開催校によって作詞作曲されたオリジナル合唱曲の指導を受ける。 歌い方(歌詞をはっきり歌う、声の出し方など)、オーケストラと共演する時の注意点なども指導を受ける。</p>		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>この事業は、子どもたちが積極的に参加する事で完成される事業です。取り組む姿勢が強ければ強いほど、コンサートが盛り上がり、一子どもたちの心に刻まれる事業になります。 各楽曲ごとに、子どもたちに感じて欲しい、受け取ってほしい内容を沢山込めて選曲しておりますが、その中の1つでも良いので、心で感じて受け取ってもらえることを目指しています。 特に、この企画の一番のメインである「私たちの合唱曲」は、何もない真っ白の部分から作り上げる作品です。この真っ白の部分に、何を描くかは、子どもたちが初めて経験する「創造」という名の壁です。多少いびつでもいいんです。何かしら描いてくれたら、あとは専門家である神奈川フィルが形を整え、完成形に持って行きます。何もない所から自分たちで考え一歩踏み出す。これがこの企画の最大の目的(ねらい)です。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>ボディパーカッションの指導</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>低学年指導の様子</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>高学年指導の様子</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>合唱曲指導の様子</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>楽器指導の様子</p> </div> <div style="width: 33%; text-align: center;">  <p>吹奏楽指導の様子</p> </div> </div>		